

【別紙様式2】

平成31年度（2019年度） 県立水戸南高等学校（通信制）自己評価表

目指す学校像	校是「風雪に耐えてこそ巨木の年輪ハ刻まれる」 常に明るくのびのびと学習を続け、高い理想と強い向上意欲に燃える豊かな心情と丈夫な身体とを兼ね備えた、心身ともにたくましい人間を育成する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒生活体験発表大会、宿泊学習などの学校行事や生徒会主催行事は生徒の自主的な活動と全職員の協力により教育的効果を上げることができた。 敷地内禁煙等の基本的な学校での生活習慣の定着は、巡回指導などを実施し、抑止効果があった。 生徒理解のための職員間での共通理解や家庭（保護者）との連携などを一層図る必要がある。 	生徒一人一人の継続的な学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 添削内容の充実によるレポート提出率の向上 「学習状況表」や「通判の活用」のより有効な活用 		
	望ましい 勤労観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームにおける進路指導の充実 教育活動全般を通じたキャリア教育への取り組み 生徒の進路実現へのサポート 		
	基本的な生活習慣と規範意識の確立 (学校生活の安全と安心)	<ul style="list-style-type: none"> 社会性と公共心の育成、規範意識の高揚 教職員の共通理解による生徒指導体制の充実 安全・安心な学校生活を送る支援体制の確立 		
	豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 精神的に学校生活を援助する体制 ホームルームにおける道徳教育の充実 		
	保護者及び家庭や関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 若年生徒、中絶時不登校、全日中途退学者等多様な生徒への個別化した指導 社会的自立を支援するための家庭等との連携 		
	学校行事への積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> 生徒中心の企画内容の検討 特別活動への主体的な参加 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 日本語運用能力を高めることで、より豊かな社会性と視野を身に付けさせる。 古典の鑑賞を通して人生観・世界観を広げさせる。 小説や評論の読解を通して思考力と共感力を高め、情操を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 正確な日本語を用い、文意が通ずる文章を作成できるように、スクーリングを通して指導する。 教材の読解を深めるための語彙力を養うために、レポートのさらなる改善を図る。 作文や読書感想文などの創作活動を通して自己の内面を探り、自分自身と向かい合う機会を持つことで、自己実現への契機となるよう、きめ細かな添削指導をする。 レポートを通して定期的且つ継続的な漢字指導を行う。 常識的な国語の知識をレポートとスクーリングを通して身に付けさせる。 		
地歴	<ul style="list-style-type: none"> 激しく変動する世界を正しく公平に理解させることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> スクーリング終了時に、指導内容を点検・改善し、次のスクーリングに生かす。 生徒一人一人の能力・実態に合わせた指導を行う。視聴覚教材等の効果的な利用を図る。 激しく変動する世界にあって、さまざまな情報源から、生きた世界の姿を正しく理解させるとともに、公平な立場で世界の諸問題を見つめられる教養を育てる。 		
公民	<ul style="list-style-type: none"> 現代の社会をよく見つけ、正しく公平に理解させることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> スクーリング終了時に、指導内容を点検・改善し、次のスクーリングに生かす。 生徒一人一人の能力・実態に合わせた指導を行う。視聴覚教材等の効果的な利用を図る。 激しく変動する世界に対応するため、あらゆるメディアを利用して、現代社会の姿を正しく理解させると共に、グローバルな視野に立って、公平な立場で世界の諸問題を見つめられる心と教養を育てる。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図ることで思考力・判断力・表現力の基礎を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎事項の理解に重点を置いた分かり易いレポートとなるよう、更なる改善を図る。 基礎事項の理解に重点を置いた丁寧なレポート添削を行う。 自学自習でレポート作成ができるようにするために、面接(スクーリング)で学びに向かう力を育てる。また補助資料をより充実させる。 新指導要領への移行を鑑み、生徒の実態に合わせた教育課程の改訂を検討する。 		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や実習・観察などを通して、理科のおもしろさを実感させ、興味・関心をもって学べるように努める。 ・基礎的な知識を定着させる。 ・自宅学習を充実させる。 	・実験や観察の機会を増やし、実物や現象に直接ふれることができるように努める。		
		・理科を楽しみながら学べるように、実験や実習について、さらに工夫・改善に努める。		
		・視聴覚教材やプリントなどを利用して、生徒が理解しやすいように、また、興味を持ってスクーリングに臨めるように努める。		
		・生徒一人一人に応じたレポート添削指導やサポートについて改善を図る。		
		・自学自習のためのレポートの工夫に努める。		
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の実践を通して、計画的に運動を楽しむ習慣を育て、生涯体育の基礎を養う。 ・健康や安全の理解を深めるとともに、健康を高める能力や態度を育てる。 	・各種の運動の合理的な実践を通して、一人ひとりの身体能力や個性を尊重した指導を行い、思考力・判断力・表現力を養い、生涯を通じて運動に親しめる能力や態度を養う。		
		・レポート添削を中心とした学習において、運動や健康・安全についての知識及び理解を深めさせ、学びに向かう力、人間性等が高まるよう、主体的・対話的で深い学びができる能力や態度を養う。		
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術各科の基礎知識、用具等の扱いを習得させる。 ・創作の喜びや鑑賞の楽しみを実感し、生涯にわたって親しむことができる。 	・スクーリングは、各種道具や表現方法などを説明し、実技指導を工夫する。		
		・レポートは、生徒が主体的に取り組める内容に厳選し、個に応じた添削指導に努める。		
		・テストは、スクーリングやレポート内容を反映させるものとし、個に応じて支援する。		
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・音声指導を行い、使える英語を身に付けさせる。 ・レポート作成に参考になる指導をする。 	・単語や英文を声に出して読ませる。実生活にどれだけ英語が浸透しているかを認識させ、思考力・判断力・表現力を養い、簡単な英語を使えるようにする。		
		・スクーリングにおいて、主体的な学びに向かう力を育むように、できるだけレポートの内容について指導		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技術を習得させる。 ・家庭生活の重要性を実感させる。 	・きめ細やかなレポート添削を行う。		
		・生徒ひとりひとりの技術に応じた実技指導を実施する。		
		・ホームプロジェクトを通して、生活者としての自立を目指す学習を充実する。		
		・実験・実習の体験を通して日常生活をよりよくしていこうとする意欲を高める。		
商業	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス教育における基礎的・基本的な知識・技能の習得の向上に努める。 	・レポート内容を精選し、配分を工夫する。		
		・スクーリングの内容および補助プリントを充実する。		
		・個に応じた添削指導に努める。		
		・資格取得やビジネススキルアップを支援する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情報	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク、端末、コンテンツ等を利用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な用語を学習する。 簡単パソコン操作ができるようにする。 DVDを利用したスマートホンの利便性と危険性の情報モラルに関して指導する。 		
教務	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が各々の目標を達成できるような学校の運営に取り組む。 生徒が自分の個性に応じた学習計画を立て、前向きな姿勢で学習に取り組めるようにする。 各部・委員会等との連携を図り、円滑な学校運営に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「通信制の手引き」の構成や表現等を検討するなど、情報提供の在り方について改善を図る。 時間割を工夫し、生徒が効率よくスクーリングに出席できるようにする。 試験の実施方法やその時期を検討し、無理なく受験できる環境を整え、合格率の向上を目指す。 新学習指導要領についての研修を深め、教育課程の編成に取り組む。 生徒の希望が十分に反映された科目履修が実現できるような履修指導の方法を考案する。 支援システムの機能強化を進め、事務処理の効率化を図る。 学習指導部と連携して、レポート提出率及び単位修得率の向上を図る。 		
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を定着させ、単位修得率を向上させる。 自学自習の支援を図る。 生徒の進路目標の達成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教具・教材などの学習環境の整備と充実に努める。レポート改善を促進する。 生徒に「南通信」の有効活用を促すとともに、内容の充実に努める。 NHK高校講座の視聴を奨励し、自学自習の習慣化を定着させ単位修得率向上を図る。 図書内容の充実と利用の促進を図る。 担任を中心に個々の生徒の進路相談を充実させるために、進路関係の情報収集、提供に努める。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 校内全面禁煙の周知を図り、喫煙を防止する。 公共マナーの向上と社会的規範の遵守を図る。 思いやりのある心の育成を図る。 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年の先生の協力を得て、スクーリングの巡回指導、校内放送等により、喫煙を防止していく。 HR等を利用し、薬物の危険性、有害情報の提供、交通マナーなどを随時指導していく。 他人が受ける心の痛みが理解するとともに、自主性のある行動がとれるよう指導していく。 多くの行事を通じて、豊かな人間性の育成を図る。 生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。 保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。 いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。 保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。 情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。 		
保健	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康と自己管理能力の育成を図る。 環境美化の定着を図る。 健康・安全に対する知識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> HRや「水戸南通信」を通して生徒の健康維持・安全衛生面についての意識高揚に努める。 健康診断をより多くの生徒に受診させることにより、健康管理の必要性について理解させる。 深刻な持病や精神面で支障のある生徒については、関係職員(学校医やスクールカウンセラー)の共通理解のもとに指導に当たる。 スクーリング時に、3才以上の幼児を持つ生徒の援助として託児を実施する。 スクーリング時の清掃などを通して、公共の場における美化意識の向上を図る。 スクーリング時のHRや「水戸南通信」を通し、校内における緊急時の対応が出来るよう啓発する。・災害時の遠方からの通学者に配慮できるよう備蓄等を検討する。 薬物使用の害について知らせ、乱用防止に努める。 		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
渉外	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒募集のための広報活動を充実させる。 ・同窓会活動の維持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内パンフレット、ポスター等の内容をより充実させるために工夫・努力する。 ・市町村訪問を効果的に実施することによって来年度の生徒募集の広報活動を図る。 ・通信制同窓会および定通教育振興会の活動の維持に努める。 		
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣と学習態度の確立 ・学習への自発的な喚起を促す指導 ・多種多様な生徒への指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場において高校生としてふさわしい行動がとれるよう指導する。 ・各生徒の個性に対応した個別指導と学習への興味を喚起させる指導により、スクーリングの出席率並びにレポートの提出率の向上を目指す。 ・新卒生徒の中でも特に問題行動のある生徒、不登校の傾向にある生徒、全日制高校を中途退学した生徒などの理解に努め、適切な対応を心がける。 		
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状況に応じた指導による単位修得率の向上 ・生徒一人ひとりの自立を促す生活指導の充実 ・学習環境を整え、学習に集中できる教室秩序の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の学習状況や課題などを精査し、どうすれば単位を修得できるかを理解させ、レポート提出率、スクーリング出席率を向上させ、個々の単位修得率の向上を目指す。 ・転編生を含め問題を抱えている生徒について、関係する分掌・委員会などとも連携して情報を収集し、生徒理解に努め、適切な対応を心がける。 ・校内巡視等により問題行動を未然に防ぐと共に、生徒への声掛けの機会を多く設ける。 		
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・機能的生徒理解の充実 ・学習のより一層の定着化 ・適切な履修指導 ・進路目標の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱えている生徒については、学年全体で情報等を共有し、各部署と連携・協力しながら学年全体で対処する。 ・スクーリング出席率及びレポート提出率を向上させ、単位修得数を上げていく。 ・適時、履修指導を行い、現状にあった方向性を導き出していく。 ・進路相談に努め、生徒の進路実現を支援する。 		
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業を見据えた単位修得率の向上 ・最上級生として他学年の模範となる学校生活の習慣化 ・生徒個々に合わせた進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒それぞれに合った履修計画を作成し、単位修得率の向上を目指し、卒業に向けて援助する。 ・転編生に対しては、スムーズな学習活動ができるよう支援する。 ・学習活動が年度途中で途切れることがないよう配慮する。 ・生徒とのコミュニケーションを大切にし、単位未修得の生徒に対しては、生徒との距離をうまく保ちながら自発的行動を待ち、単位修得の意欲を引き出す。 ・学習環境保全のため、校内巡視を実施する。 ・生徒個々に合った進路相談に努め、進路目標実現のため最大限の支援をする。 ・就職・進学共に学習指導部進路担当者と緊密に連携し、お互い情報を共有しながら、進路希望する生徒に対しての指導に努める。 		

※評価基準:A:十分達成できているB:達成できているC:概ね達成できているD:不十分であるE:出来ていない